令和７年度　学校研究全体計画

１．研究主題

自律した学び手の育成
～児童が主体的に学習に取り組む授業づくりを通して～

２．主題設定の理由

昨年度は，児童が主体となる授業を目指すため，研究主題を「自律した学び手の育成」とし，副題を「～児童が主体的に学習に取り組む授業づくりを通して～」とし，個別最適な学びと協働的な学びの一体的に充実した授業づくりのために，「つけたい力を明確にした単元構想」，「学習形態を判断・選択し，自己調整しながら学びを進めるための工夫」，「学びの深まりの実感や次時へのつながりが意識できる振り返りの充実」の３つの視点を中心に研究を進めてきた。

「つけたい力を明確にした単元構想」では，単元構想シートを作成することで単元を見通したつけたい力を明確にすることができた。また児童に委ねる場面を☆マークで表すことで授業デザイン力の向上にもつながった。「学びの深まりの実感や次時へのつながりが意識できる振り返りの充実」では，全校共通の学び方の振り返りを提示することで，自分の学びについて深く振り返ることができ，学びの積み重ね，自己調整力の育成につながった。重点として位置付けた「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実が図れる授業の在り方」では，児童自身が，学習形態を判断・選択し，自己調整しながら学びに向かうことができる自律した学び手の育成を目指して行ってきた。既習掲示やヒント動画，ヒントカードなど自ら学びに向かえるように環境を整備することで，学習に対して「やってみたい」と意欲をもって取り組める児童が増えた。

そこで今年度は，昨年度の成果を生かし，児童，教員のアンケートで課題となった多様な他者との対話を通して自分の考えを再構築し，児童自身が自らの考えに広がりや深まりを感じられるように手立てや委ねる場を考えていきたい。また児童が学びの深まりについて振り返ることができるよう，児童の進度を見取り，児童が次時の見通しがもてるようコメント等の個別支援の工夫を考えていきたい。

３．授業でめざす児童の姿

本校の目指す児童の姿「じ・も・と」で育つ　あらやの子

①　じ　自分で考え行動する

＊　**自律した学びができる子**

自分から「やってみたい」と思い自分から学びに向かう姿

誰と学ぶか，どこで学ぶか，自分で判断し，自己調整しながら学習を進めている姿

②　も　もっと良くなろうとする

＊　**課題発見力・解決力・探求心のある子**

＊　**学びの自覚化・学びの楽しさを味わえる子**

「どうしてこうなるのだろう」「もっと知りたい，解いてみたい」と問いを持ち探求する姿　でき

た・分かったと実感している，次はこうしたいと次の学びにつなげている姿

③ と 共に学ぶ　思いやる

＊　比較・多様な考えの受容，発信・表現・対話力のある子

自分の意見や考えを話したい，伝えたい

友だちの考えを聞いてみたい，考えと比べてみたいと自分から関わる姿

４．研究の内容・方法

（１）カリキュラムマネジメントの確立

カリキュラムマップを基に，身に付いた資質・能力を他教科で活用できるように学習と学習を関連付け，学習効果を高めるという視点で教科横断的な学習につなげていく。

（２）個別最適な学びと協働的な学びの一体的な授業づくり

①　つけたい力を明確にした単元構想

- 指導事項を身に付けた児童の姿を具体的にイメージする。
- 児童自身が学び手として，本時の課題でつけたい力が意識できるような課題設定をする。
- ゴールに向かう単元構想と，系統的な学びを生かした授業デザインをする。
- 課題解決の過程となる学習過程を構想し，1 時間 1 時間が単元のゴールに繋がる　よう工夫する。
- 既習を活用しながら学習を積み上げるために，系統的な学びを重視する。

②　学習形態を判断・選択し，自己調整しながら学びを進めるための工夫

- 児童自身の学びに合わせて学習活動を判断・選択できる場面を工夫して設定する。
- 前時との繋がりや次時への見通しが持てる導入と授業終末に振り返りをする時間を確保する。
- 学習計画表に振り返りを記入できるようにし，学びの全体を見通し，児童が自分で自分の学びを創ることに繋げる。
- 学びの進め方の掲示，ICT 資料の準備，関連教材の準備等，教材研究を通して行う。
- 学びの自覚化に繋げる既習や学びの足跡を掲示する。
- 一人一人の学びを見取り，教師が学び手の伴走者となるよう手立てを工夫する。
- 児童が意図を持って交流・対話できるよう，児童一人一人の考えを ICT 等の効果的な活用により視覚化する。
- めざす交流や対話の姿を掲示や動画などで示し，共通理解を図り，対話トレーニングの時間を活用し，交流や対話のスキルを身に付ける。

③　学びの深まりの実感や次時へのつながりが意識できる振り返りの充実

- 授業終末の振り返りを大切にし，今日できたこと・できるようになった事，次の時間のめあて等を児童自身がもち，進めていけるようにする。
- 学びに見通しがもてるように，単元計画に振り返りやそれに対する教師からのコメント等が書き込めるようにする。

５．研究の全体構想

学校教育目標

「仲間と共によりよい社会を切り拓く資質・能力の確実な育成」

授業で目指す児童の姿

＊ 自律した学びができる子
＊ 課題発見力･解決力･探求心のある子
＊ 学びの自覚化･学びの楽しさを味わえる子
＊ 比較･多様な考えの受容，発信･表現･対話力のある子

研究主題

自律した学び手の育成

～子どもが主体的に学習に取り組む授業づくりを通して～

★ カリキュラムマネジメントの確立

○ 身に付いた資質・能力を他教科で活用できるように学習と学習を関連付け，学習効果を高めるという視点で教科横断的な学習

★ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な授業づくり

視点１ つけたい力を明確にした単元構想

○ 指導事項の的確な捉え
○ 魅力的なゴールに向かう単元構想
○ 系統的な学習の学びを生かした授業デザインの工夫

視点２ 学習形態を判断・選択し，自己調整しながら学び進めるための工夫

○ 自律的に学び進められる必然性を実感できる授業構想
○ 多様な考えに触れ，他者と協働し学びが広がる学習の充実
○ 意図的・計画的な情報活用能力の育成と学習端末の思考ツールとしての効果的な活用

視点３ 学びの深まりの実感や次時への繋がりが意識でき振り返りの充実

○ 自己の変容・学びや課題の実感
○ 次時や他教科，生活場面などへの学びの繋がりや活用場面の実感

学びを支える取組

★ 基礎基本の確実な習得
・個の特性・学習進度・到達度に応じた指導方法や教材等の工夫
・伝わる話し方，あたたかな聴き方　・さわやかタイムによる朝学習
★ 家庭学習
・個に応じた家庭学習の量と質の向上　・自主的・計画的な学習
・小中連携による家庭学習強化週間の実施（年３回）

学びを支える人間関係作り

★ 生徒指導の４つの視点を生かした温かな集団作り　★ 道徳教育の充実
★ 学校行事や学習活動と関連したキャリア教育の推進
★ 児童会活動や特別活動の活性化による自治的・主体的な活動の充実
★ 異学年交流による対話力・コミュニケーション力の育成

〇定期的に検証し、指導に活かす。
・アンケート(児童・教員)
・授業振り返りシート(教員)
・ノートや成果物等(児童)

７．学習を支える取組

★基礎基本の確実な習得
（１）個の特性・学習進度・到達度に応じた指導方法や教材等の工夫
（２）伝わる話し方・あたたかな聴き方

伝わる話し方	あたたかな聴き方
・みんなの方を向いて	・話している人を見て
・はりのある声で	・反応しながら
・最後まではっきりと	・最後まで静かに

（３）さわやかタイムによる朝学習
・対話トレーニング
・書くトレーニング
・ＧＩＧＡ

★家庭学習
（１）個に応じた家庭学習の量と質の向上
（２）自主的・計画的な学習
（３）小中連携による家庭学習強化週間の実施
・家庭学習の手引き「家庭学習のすすめ」を使い、家庭学習の取り組み方を指導する。
・家庭学習強化週間を行う。家庭学習強化週間の際に、チェックカードを保護者に見てもらい、連携をはかる。(年３回)

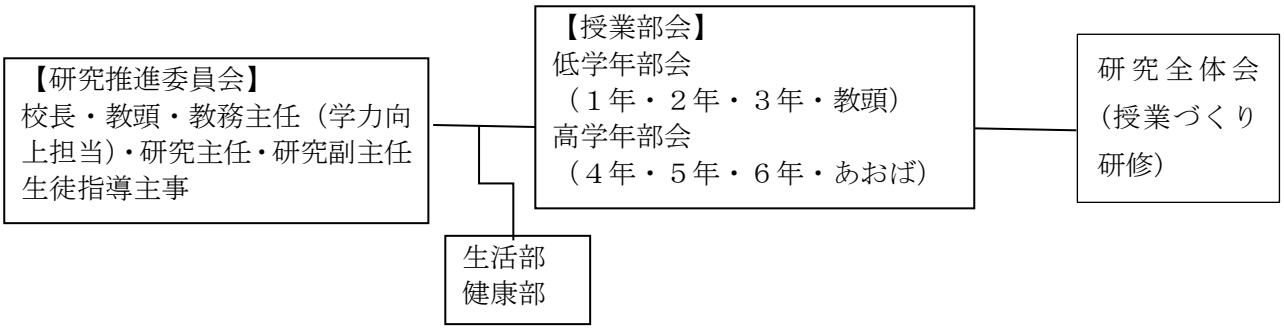
８．学びを支える人間関係作り

（１）生徒指導の４つの視点を生かした温かな集団作り
（２）学校行事や学級活動と関連したキャリア教育の推進
・学校行事や学習活動と関連させ、めあてと振り返りによる自己評価の充実
・自己の生き方、在り方を考えられる場や活動の工夫
・話し合い活動を通した主体的な意思決定や合意形成による活動の充実
（３）児童会活動や特別活動の活性化による自治的・主体的な活動の充実
・自分たちの学校生活をよりよくするために話し合い、企画・運営する。
・縦割りの「ポプラチーム」を決め、ポプラ交流会を行う。全学年がゆったりとした気持ちで楽しめる活動を６年生が選んだり、事後の振り返りを大切にしたりと、コミュニケーションに重点をおいて活動する。
（４）異学年交流による対話力・コミュ力の育成
・学習の成果を異学年に発表する。

（５）道徳教育の充実

・道徳的価値の向上と児童の言動の変容につながる心を育成する。

９．研究組織



１０．研究方法

・研究内容や方向性、授業づくりについて共通理解を図る。

・定期的に授業づくり研修会を開き、全員で教材研究を行い、授業づくり向上に努める。

・講師を招聘し、共通理解を図り、研修する。

・研究授業では、授業の視点に応じた意見や感想を持ち、整理会等を行い、成果や課題、改善点等を出し合い、共通実践を決め授業力向上に努める。

１１．　校内研修計画と経過

学期	月	内容	児童	その他の取り組み
一学期	4	今年度の方向性・研究計画・研究内容について 「主題」「構想図」「具体的な手立て」「研修計画」 授業づくり研修会「モデル授業に向けて」	学びのスタイルについて共通理解	生活目標（毎月） 授業振り返りシート(毎月末) 生徒指導の４つの視点振り返りシート(毎月末)
	5	提案授業「３年　国語科」	提案授業	
	6	授業づくり研修会「１年」 研究授業「１年」		家庭学習強化週間
	7	授業づくり研修会「５年」 研究授業「５年」 １学期の成果と課題	アンケート	アンケート
	8			
二学期	9	授業づくり研修会「６年」 研究授業「６年」		
	10	授業づくり研修会「２年」 研究授業「２年」		
	11	授業づくり研修会「４年　研究授業の模擬授業」 計画訪問　研究授業「４年」		家庭学習強化週間
	12	授業づくり研修会「級外」 研究授業「級外」 研究のふり返りについて	アンケート	アンケート
三学期	1	授業づくり研修会「あおば１・２」 研究授業「あおば１・２」 今年度の成果と課題 研究のまとめ		
	2	今年度の反省		家庭学習強化週間
	3	次年度の方向づけ		